

現場力を強みに鉄鋼事業など基幹3事業で120周年



濱田重工(株)
松本 豊
社長

「社員の現場力を強みに70年以上にわたり黒字経営を続けてきた。今後は半導体事業の伸長に期待している」と語るのは昨年6月に創業120周年を迎えた濱田重工(株)の松本豊社長。

同社は1898年に濱田米次郎氏が官営八幡製鉄所の東田第一高炉建設工事に参画し創業。以来、基幹事業であり続け、売上高の約6割を占める鉄鋼事業では日本製鉄(株)(旧・新日鉄住金(株))の八幡、君津、大分の各製鉄所や日鉄ステンレス(株)光製所、大阪製鉄の堺工場の協力会社として主に上工程部分を請け負う。高炉回りや耐火物の施工、製鋼過程で発生する副産物スラッグのリサイクル処理など多岐にわたり、「2009年に本社直轄の安全衛生推進部、12年には構内に危険体感教育センターの設置など安全管理や社員教育には注力している」と語る。

また鉄鋼事業から派生したエンジニアリング事業では機器開発力をベースに、

構内では搬送機器やクレーンなどの大型機器を主に設計から制作・据付を手がけている。現在は石炭などの保管場所で行っているスタックホイールドアといったヤード機器の製作にも注力。「設備の老朽化などの要因で各所から引き合いを受けている。価格競争力を強化するため、韓国などと製造の技術提携を図るほか設計の技術指導にも注力している」と話す。構内外ではJAXAのロケット組み立て台などメンテナンクス事業も高評価だ。

熊本、マレーシアの半導体事業も伸長

一方、1990年から本格的に開始し、熊本県菊池郡大津町やマレーシアに工場を置く、半導体事業も着実に成長を遂げている。熊本では200、300ミリメートル、マレーシアでは200ミリメートルのシリコンウェハー再生加工を手がけ、特に熊本工場では2017年5月に4棟目の新工場を建設しウェハー再生の増産体制を拡充した。「業界でいち早く8インチ、300ミリメートルの再生加工ラインを導入し大口径化に対応してきた」と自負する。また再生加工で培った技術を生かし、ニューウェハーなどの熱酸化膜付けのサービスを提供や熱電対付きのウェハーの製作や改造・修理にも領域を

広げている。

半導体業界は現在踊り場を迎えているものの中長期的には成長が見込まれている。「リーマン・ショック時に経験した通り、変化の早い業界動向を常に注視している。他社と差別化を図るために技術力・品質・サービスの追求はもちろん、素早い投資判断を実行していく」とスマホなどに使用するメモリ系に加え、電力を制御するパワー系の伸びが見込まれる中、今後はシリコン以外の新素材といった新技術の研究にも着手していく方針だ。

2005年に4代目に就任した松本社長は「この3つの基幹事業に支えられた経営の安定性が当社の強み」と分析する。鉄冷えの時期は半導体事業、熊本震災時には鉄鋼事業が収益を支えるといったように鉄鋼、エンジニアリングと半導体という異業種が互いに補完してきた。昨年、創業120周年を迎えたのを機に社風だった「誠心(まごころ)」を企業理念として明確に掲げた同社。今年からロゴマークや社員の現場作業着も一新。「昨今の労働力不足や、当社の作業環境、設備形態など容易に自動化ができない現状の中、ものづくり企業として若年層を採用するには職場環境の整備が重要。今後は人工知能の導入など現場作業も刷新していく」と次世代を見据え、基幹3事業に加え新規事業の創出にも挑戦していく方針だ。

【本社】〒804-0053 北九州市戸畑区牧山1-1-36 【創業】1898年6月 【設立】1950年6月 【資本金】3億2604万円 【売上高】約305億円(2018年7月期) 【従業員】1949人 【事業内容】鉄鋼関連事業、エンジニアリング事業、半導体事業、太陽光発電事業など
【関連会社】アイコムソフト(株)、(株)エムエスシー、管根オートライフセンター(株)、高千穂商興(株)、テンライ開発(株)、豊山(株)、HAMADATEC.SDN BHD.(ハマダテック) 【TEL】093-883-0369

(まつもと・ゆたか)

東京都世田谷区出身。1961年6月28日生まれの57歳。早稲田大学理工学部機械工学科卒。趣味は機械いじり、読書